

小林 幸風

隠居老思ひは無色屠蘇旨し
七草粥口元ゆるむ百二歳
気がつけば老老介護七日粥
春爛漫ふと思ひ出す父の笑み
春風や小蜘蛛が飛んで銀の糸
雷や子犬とびこむ腕の中

黄金の銀杏並木はモーツァルト
柚子の湯に浸りて聞きし雨の音
凍る暮宴の帰路の友倒る
百歳を重ねし母と大晦日

.....

谿聲主宰から、百歳のお母さんと一緒に居るのは望んでもで
きないこと、ぜひお母さんを詠んでみて下さい、と言われた
ことがありました。一日も早い回復を祈っております。